

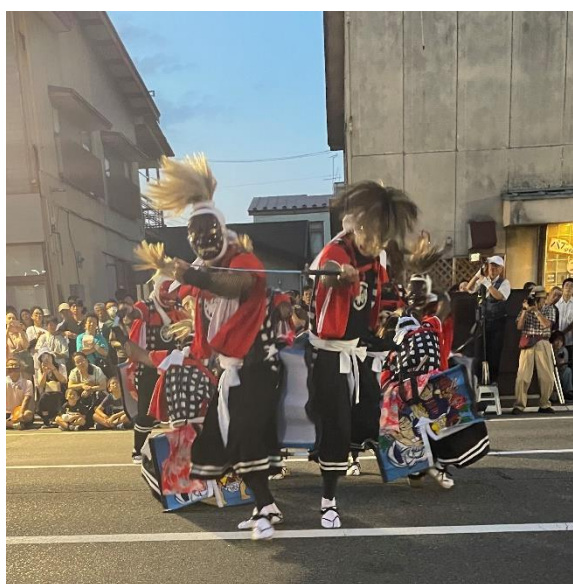
令和6年8月5日

第63回北上・みちのく芸能祭りに参加して

第63回北上・みちのく芸能祭りは、例年通り熱気に包まれ、私もふるさとの旧友、そして現地で合流したふるさと会の高橋 正明さん、飛田さんらと共にその場に身を置きました。

中学時代、運動会で鬼剣舞を踊った経験がある私にとって、この祭りは、タイムスリップしたような感覚を覚える、特別な場所です。

祭りの2日目、鬼剣舞大群舞が始まると、私は中学生の頃の運動場にワープしたような気がします。あの時と同じように、体中に力がみなぎってくるのが分かります。仲間たちの勇壮な舞が目に焼き付いています。特に、鬼たちが一斉に動き出す瞬間、地響きのような太鼓の音と、息を飲むような静寂が織りなすハーモニーは、まるで時間が止まったかのように感じられました。



3日目のトロッコ流しは、幻想的な光景が広がり、心が洗われるようなひとときでした。無数の灯籠が川面を漂い、静寂の中に幻想的な光が揺らめく様子は、水面に散りばめられたように美しく、夏の夜空に映え映えとしていました。



しかし、楽しみにしていた花火大会は、突如として降り出したゲリラ豪雨により中止となってしまいました。雨粒が顔にあたる感触、周囲の人々と共に見上げる曇り空、自然の力強さをまざまざと感じると同時に、主催者の方々や来場者全員が一体となって状況に対応しようとする姿に、温かい気持ちになりました。濡れた髪や一緒に主催者から提供されたレインウェアを身にまとうこと、これらの記憶は、私にとって、この祭りのもう一つの思い出となりました。



その後、雨もやみ、場所を変え花火を鑑賞することができました。夜空を彩る花火は、美しい弧を描いていました。今回の経験を通して、自然の厳しさと美しさ、そして人々の繋がりを改めて感じることとなりました。特に、この祭りが、地域の人々にとって、一年を締めくくる大切なイベントであり、世代を超えて受け継がれてきた伝統であることを実感しました。北上・みちのく芸能祭りは、単なる祭りではなく、地域の人々の魂が宿るような、活気あふれる場所でした。この祭りを経験できたことは、私にとってかけがえのない思い出となりました。



【花火の動画 URL】

<https://okurin.bitpark.co.jp/d.php?u=83d83G4F3WRAEhL>

(菊池 潤 記)